

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Western Michigan University

**留学期間** : 平成 27 年 8 月 29 日 ~ 平成 28 年 5 月 15 日

私はアメリカ留学で環境学を専攻していました。立命館大学では国際関係学部にも所属し、先進国や多国籍企業の途上国進出によって発生している途上国でのエネルギーや衛生、環境問題をまなんでいました。中でも私は環境問題に関して強い関心を持ち、環境問題、特に地球温暖化に関してより深く学びたいと考え、立命館大学国際関係学部では開講されていない環境学の授業を Western Michigan University (WMU) で履修しました。

Current Environmental Problems では、アメリカで深刻化する環境問題の特徴を地理的特徴と比較しながら学びました。Environmental Economics では、経済への悪影響を最小限にしながら環境問題を解決するための政府政策を学びました。また、Global Climate Challenging Society の授業では、地球温暖化の多面性を学びました。毎回異なる WMU の教授がゲストスピーカーとして講義を行い、温暖化問題を地学、化学、経済学、心理学、政治学、国際関係学など、多様な研究分野から学ぶことができました。

こうした授業を受ける中で、いずれの授業もアメリカの目線で環境問題をとらえており、それらは日本のものとは全く異なると感じました。アメリカは環境問題よりも経済成長を優先しており、実際に京都議定書には先進国で唯一批准しませんでした。日本の教科書では、京都議定書に関する箇所では必ずアメリカのこの決定を批判しています。その一方、アメリカのどの環境学の授業の教科書にも、当時の経済状況や、中国の経済的台頭を考えると議定書への批准は妥当なものと書かれ、日本のように厳しく批判されていませんでした。また、環境学に精通する教授にこの決定に関して質問をしましたが、教科書と同様、京都議定書が締結された当時は経済発展が最重要課題であり、環境問題に取り組むことはできず、経済発展著しい中国が批准しなかったためにアメリカが批准を回避したのは妥当であると仰っていました。

また、京都議定書だけではなく、福島第一原子力発電事故に関しても数人の教授とディスカッションを行いました。日本の大学のほとんどの教授は、原子力発電は維持費などの金銭的なコストはもちろん、事故による健康被害などの外部費用が非常に高いと述べ、原子力発電には反対の姿勢を示しています。その一方、アメリカの教授陣の多くは、原子力発電は十分に管理された状況で用いられれば問題はなく、環境問題が懸念されており、新エネルギー開発の進む現代においては最良の選択の一つでもあると述べていました。特にアメリカは日本に比べ人口密度も小さいため、使用されていない土地が多くあり、放射性廃棄物の処理上に困ることはありません。また、内陸部などでは地震や津波のリスクは非常に少なく、自然災害による影響も少ないと考えられています。

こうした授業や教授との一対一の討論を通して、環境問題に対する日本とアメリカの見方の違いを肌で感じることができました。こうした価値観の違いは今後も環境問題解決のための国際会議では大きな障

壁となっていくと考えます。私は将来、途上国への開発援助を行う団体やビジネス展開していく企業と途上国の架け橋となる職業に就きたいと考えています。留学中に肌で感じる事ができたこの価値観の相違は、こうした業務への大きな強みになると考えます。

今後は留学中に学んだ環境学の知識を生かし、政治経済学を専攻するゼミでさらに環境経済学を学び、経済発展と環境問題が同時進行するインドや中国において、環境負荷を抑えながらエネルギー不足問題を解消し、経済発展をさせていくための事業展開や政府政策を研究していきたいと思っています。

今後、留学する方には、事前に明確な目標を設定した上で留学に挑んでほしいと思っています。たとえば、私は「環境問題を通して日米の価値観の違いを学ぶこと」を目標としていました。その目標の達成のために日々の授業の予習・復習・テスト勉強はもちろんのこと、オフィスアワーを利用して福島第一原発や京都議定書、留学中に締結されたパリ協定などに関して教授と討論しました。これらによって、日米の価値観の違いに触れることができ、目標を達成して留學生活を充実したものにする事ができました。

留學中の目標は必ずしも勉學に関する事ではなならないとは限りません。「誰よりも多く留學生の友達を作る」でも「友達と日本語の授業を行うボランティアサークルをつくる」でも「クラブイベントを独自開催する」でも、なんでもいいと思います。とにかく、留學の出発前に一番やってからいくべきことは「可能な限り具体的な留學生活を通して達成したい目標の設定」だと思います。

しっかりと目標を事前に設定できていれば、留學生活が始まってから自分の信念がぶれることはないですし、その目標を軸にして無駄のない留學生活を送ることができると思います。日本での生活とは違い、新たな環境での生活は楽しいこともたくさんありますが、様々な困難が立ちまはだかります。しっかりと自分の目標を留學の軸に据えていれば、自然と困難を乗り越えていけると思います。